

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1170202780		
法人名	ALSOK介護株式会社		
事業所名	グループホーム みんなの家 川口		
所在地	埼玉県川口市安行領根岸861-2		
自己評価作成日	2020年10月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア
所在地	埼玉県熊谷市久下1702番地
訪問調査日	令和2年11月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護経験年数が多いベテランの介護職員が多くGH川口に5年以上勤務している職員が多数勤務している。またGH川口では今迄に様々なご利用者様の看取りをしてきており職員も経験があるので今後ご高齢になり看取りが必要なお利用者様が入居されてもすぐに対応が出来る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR京浜東北線「蕨」駅よりバスで18分程にある、鉄骨2階建て2ユニット定員18名のグループホームである。近くに芝川があり、天気の良い日には、川沿いの遊歩道を散歩し、四季折々に変わる風景を楽しむことができる環境にある。ホーム理念である「コミュニケーションを大切にする」をモットーに掲げ、日々の関わりで常に挨拶をすることに心掛け、コミュニケーションを図りながら、穏やかで家庭的な雰囲気の中で日常生活が送れるよう、全職員の意識を高めてケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念「コミュニケーションを大切にする」全職員は認知症の特性を良く理解して、入居者様の立場に立ち、ニーズがどこにあるかに焦点をあてて、コミュニケーションを図っている。	事務室に理念を掲示し、いつでも確認できるようにしている。日々の申し送りや職員会議で振り返り、意識の共有を図り、実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に町会長・民生委員・地域包括支援センターの参加をお願いしている。また毎年近所の北中学校から夢ワークと称してホームでの職業体験を行っている。	自治会に加入している。地域の情報は回覧板等から得ている。従来は運営推進会議を通じて地域ボランティアや中学生体験学習等を受け入れていたが、現在はコロナ禍のために交流が途絶えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に町会長・民生委員の参加をお願いし日々の介護について説明を行っている。北中学校の職業体験の際は中学生に介護について説明を行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では入居者様の状態変化に伴い第3の選択肢としてホームでの看取りも可能だと伝えるのと共に職員にも看取りについて指導をしていると伝えた。	前年度は2ヶ月毎、奇数月に家族、町会長、民生委員、地域包括支援センター職員が参加し、ホームの現状や活動内容を報告し、意見交換を行っていたが、コロナ禍により開催出来ていない。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の入居者に関する事は、市の担当者で連絡を取り、協力関係を築いている。	生活保護の入居者がおり、3ヶ月に1度、市の担当者の訪問がある。現在はコロナ禍により空き情報や事故報告等、電話やメールで連絡・報告をし、連携を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	具体的な行為は正しく理解しているが、玄関の施錠は外部からの不法侵入等を防ぐため止む負えずオートロックをしている。	身体拘束委員会を2ヶ月毎に開催し、身体拘束をしないケアの実践について理解し、意識の共有を図っている。また、法人本部の研修資料が8月と11月に届き、それを使用した勉強会を実施している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を定期開催し、防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内の研修予定を見やすい所に貼りだし職員に参加を呼び掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は十分な時間をかけて、懇切丁寧に説明と同意を得ている。解約の際は、話をよく伺っている。改定の際は、文書で説明と同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常時、ホーム長、管理者、計画作成担当者が、意見を聞く様に努めている。玄関には、お客様相談係行きの意見記入用紙が常備してある。	面会時には声掛けし、意見や要望など何でも言ってもらえるような雰囲気配慮している。入居者から要望があった場合は家族と相談し、希望が叶うよう努めている。また、玄関に意見用紙を設置し、法人本部に直接届くようにし、意見・要望の吸上げを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から職員とのコミュニケーションを良く取り改善すべき点があればなるべく迅速に解決している。	ホーム長は常日頃から職員の意見や提案を聞くよう、コミュニケーションを図っており、話やすい雰囲気づくりに留意している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課と、年2回の個別面談を実施。 職員の希望出勤日数を聞きなるべく希望に添えようシフトを調節している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員に対する法人内の研修があるので参加して頂くと共に研修内容を職員会議で発表して頂くようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内で管理者会議が月1回あり。情報の共有・交換を行っている。その内容は職員会議等で周知している。また代表者と管理者で個人面談を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実態調査をかなり丁寧を実施している。また、一ヶ月の暫定プランを作成し、暫定プランの期間中に丁寧なアセスメントを実施している。本人とのコミュニケーションを重視。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の実態調査をかなり丁寧を実施している。また、一ヶ月の暫定プランを作成し、暫定プランの期間中に丁寧なアセスメントを実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査の段階で他のサービスの説明を行いご家族様と話し合い必要であれば他のサービスの提供も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お手伝いと称しご利用者様と一緒に食器拭きやホールの掃除を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や来設された時に、ケアスタッフよりもご家族様からの支援、良い支援のプランなどご相談し連携した関係を築いている。ご入居者様からの要望をご家族様にお伝えし、ご協力を頂きながら支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様への面会の方には、丁寧に対応している。またご家族が入居者と外出しやすい様に丁寧な対応をしている。	日々の会話での傾聴や家族から得た情報により馴染みの関係の把握に努めている。現在はコロナ禍のため法人本部の通達により、安全面に配慮し、全社的に面会は事前予約で玄関にて5分間という対応を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活活動(清掃・洗濯物など)を皆で行い、良好な関係が築ける様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院や、他の施設に移った際、しばらくして落ち着いた頃に電話や手紙を出している。 またお葬式で使う遺影の写真の提供も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	実態調査や入居後に伺った情報から、生活歴や価値観などを把握し、1人1人に合った言葉掛けや対応を実施している。	日々の関わりから本人の言葉や表情等から思いや意向の把握に努めている。日々の申し送り等で得た情報を共有し、一人ひとりに寄り添った言葉掛けや対応を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査の際に今迄の生活歴や今迄のサービス利用の詳細を聞き調査票に詳しく記入している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録は簡略化したが、申し送りノート・日々の申し送りに1人ずつ記載している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネを中心として、本人からの意見や希望、気持ちを聞き取り、ご家族の希望等も随時聞いている。全てのスタッフから意見を聴取して、介護計画を作成している。	入居者、家族の思いや意見を聞き、全職員で意見交換をし、計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを行い、計画の見直しは6ヶ月毎としているが、状態変化の都度、現状に即した計画の変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活記録だけでなく、申し送りノートをホームで作り今後のケアの仕方等について随時記入し介護にあたっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の要望があった場合には各階のフロア長が要望をまとめ管理者に報告を行い買い物代行等できる限り対応を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様の中にパズル等、昔趣味で行っていたことを活かしホームでもご本人のやる気がある時に行って頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診医の診療にて健康管理を行っている。急変時にも24時間対応の看護師と連携をとっている。	入居前のかかりつけ医の受診が可能であり、通院は家族対応となっている。協力医と歯科の往診が月2回あり、契約薬剤師の訪問が週1回ある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は気軽に看護職員に入居者様の状態を伝えたり、相談している。また看護師連絡記録に職員から看護師へ伝えたい事があれば記入をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーを作成し医療機関の医師、相談員などと随時連携している。入院後も病院にて実態把握を行い、ご家族にも報告相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期的な往診で状態の変化について早期に把握するのと共に往診で終末期の判断が出た場合にはご家族様に来て頂き、DRより状態を説明した後に看取りの同意書を作成するようにしている。	契約時に重度化や終末期の在り方について、ホームで対応し得るケアについて十分に説明をしている。状態変化の都度、ドクターを交えて話し合い、見取りを希望する場合は同意書を作成し、説明の上で対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応表を備えスタッフルームの見やすい場所に貼りだしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行うのと共に職員会議で避難場所や方法を決め、職員が行えるようにしている。	今年度は11月に入居者、職員が参加の自主総合訓練を予定している。過去に家主に参加して頂いたことがあるが、現在、地域住民が参加するには至っていない。	昼夜を問わず入居者が避難できる方法を職員が身につけると共に地域住民も交えた訓練に向けた取り組みが望まれる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お金のこと・子ども関係・職業等、自分から発しない場合はその話題に触れないように配慮している。	一人ひとりを理解し、性格を把握して人生の先輩として敬う心をもって対応している。また、入居者の好まぬ内容の話題には触れないよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なんでも自由に発言できる雰囲気作りを心掛けている。自宅に電話をしたい入居者様で、ご家族が同意されていれば、制限なくホームの電話を使用して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お風呂の順番を後にして欲しいと言う希望があれば、それに沿っている。散歩の希望があれば、職員が対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ホームで過ごされる服はいままでご本人様 が使用していた洋服を用意して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューをホワイトボードに書いて頂いたり、テーブルを拭いて頂いている。食事は大方、職員も一緒に摂り、片づけでは、食器洗いを手伝って頂いている。	食事は専門業者に委託している。月1回のご当地麺メニューやイベント食等、楽しい食事となるよう心掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後に、食事水分チェック表に記入して把握している。摂取が少ない時は、理由を調査して改善出来る様に対応している。必要に応じてキザミ食、ミキサー食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの介助、促しを実施して、全員が清潔保持している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し統一した誘導、声掛け、支援を実施している。可能な限り残存能力を生かしトイレで立位保持をして頂いている。	排泄チェック表により、個々の習慣やパターンを把握し、様子を見計らって声を掛けている。トイレでの排泄を目標とし、自立に向け残存機能を活かし、身体機能に応じた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに摂って頂く。自費でヨーグルトを購入して頂く。自立歩行の可能な方には、積極的に歩行訓練して頂くなど。また、必要に応じて往診医より処方薬あり。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午後にリハビリのある入居者様の入浴は、疲れてしまわない様に曜日や時間を調整している。またご本人の体調が優れない場合は日を改める等のケアを行っている。	午前、午後を問わず、入居者のその日の様子により週2回の入浴支援を行っている。拒む方には無理強いをせず、声掛けや時間をずらしたり、同性介助などの工夫をしている。希望により入浴剤や四季を感じていただけるよう、季節の柚子湯等を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後に短時間の昼寝が出来る様に介助をしている。夜間は静かな環境を作り、安眠できている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様のお薬情報をスタッフがいつでも見られる所に保管しており、必要時に参照している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	パズルが好きなご利用者様にはホーム内にあるパズルを提供し、清掃係・食器拭き係を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩行が可能な方は職員が付き添いで散歩に出かけるのと共に、車椅子の方でも職員が介助で希望があれば外出に出れるよう支援を行っている。	現在はコロナ禍により外出を制限させていたが、事前予約をしてもらい、玄関ホールで5分間の面会ができるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の意向もあることなので、現状は2名のみ所持されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話をかけて差し上げている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は早番と夜勤開けが見守りを兼ねて掃除を行い、ホールは職員と利用者が掃除をし、トイレは早番が掃除している。また居室やホールの温度管理も快適に過ごせるよう調節している。	リビングに大きな窓があり明るく、通路等共用部分は広々としている。毎日職員が入居者と共に掃除をしており、清潔感にあふれ、快適な空間となっている。季節感のある作品を飾り、空調等も管理され、居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気が合うご利用者様同士で席を近くにしたり、午後にはご本人の状態に合わせ居室で休んで頂く等の対応を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今迄ご自宅で使用していたラジカセやテレビ等を持参できるよう対応している。	居室にはエアコン、ベッド、タンス、クロゼット、洗面台等が設置されている。今迄の生活スタイルで暮らせるよう、使い慣れたものや思い出の物、ラジカセ、テレビ等を持ち込んで頂き、自分の家として居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自室が分かりやすいように表示している。また廊下には手すりが付いており安全に歩ける様配慮している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	2	事業所と地域との災害対策に向けた準備があまり出来ていない。	事業所と地域(町会内)で避難訓練等に積極的に参加する。	まずは立ち消えになってしまった、地域での避難訓練の計画を町会長と話し合い職員とご利用者様が参加できるようにする。	8ヶ月
2	4	コロナウイルスの状況により運営推進会議が開けていない。	面会が可能になった後、開催を行う。	まずはウイルスの予防を確実に行之い、収束又は緩和を待つ。	6ヶ月
3					
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。